

介護職員初任者研修所が開講

城西病院の介護職員初任者研修所の開講式が9月1日、ヒューマン・ハウス2号棟で開かれました。開所式には結城市の前場文夫市長や臼井平八郎県議、筑西市の須藤茂市長、地元自治会や福祉関係者など約90人が出席、開講を祝いました。

この研修所は、介護職の人材不足の解消の一助にと、介護の人材育成、将来的には介護の分野で働く外国人の育成なども視野に入れて開講しました。介護職員初任者は、平成25年4月に従来のホームヘルパー2級の資格を変更、資格を得るためにはこれまでの130時間の講習と演習、実習に加え、筆記試験に合格することが必要となりました。城西病院では、初年度の平成26年度は、介護の資格を取得していない20人を対象に、研修を行うことになりました。

開講式で多田正毅理事長や前場市長、臼井県議、須藤市長らが開講を祝いました。青木由美所長は「結城市内外の幅広い年齢層の受け入れ、外国人の受け皿になるような組織づくりを狙いに設立。介護を提供するための基本的な知識、技術、高齢者に寄り添う心を学んでもらいたい」とあいさつ。受講生を代表し、小林忍さんは「介護の現場で働く私たちは常に時代を先取りした行動が求められ、自己研鑽（さん）が欠かせないことを再認識し、受講の気持ちを新たにしたい」と決意を述べました。

20人は半年間にわたり、城西病院や筑西会の専門職員を講師に、介護に関する幅広い知識や技術、心構えを学

び、2月に卒業を迎える予定です。

来年度以降は、介護職に関心のある人や介護ボランティア、介護施設などで働いている人などを対象に、受講生を募集していく予定です。

平成26年9月2日



開講を祝いあいさつする多田正毅理事長、前場文夫市長、臼井平八郎県議、須藤茂市長、稲葉里子市議（右上から）



あいさつする青木由美所長と受講生を代表して決意を述べる小林忍さん（左から）

医療法人厚友会 城西病院 介護職員初任者研修所開講式



手づくりの胸章をつけた受講生たち